

## 新潟市立

## 南万代小学校



### 学校データ

#### 【学級数】

14学級

#### 【児童生徒数】

351人

#### 【地域コーディネーターの有無】

有

## 目指す子ども像 地域を知り、まちづくりに参画する子ども

### 1 はじめに

2019年6月18日 村上方面で地震が起きた。新潟市内でも強い揺れを感じた。新潟市万代にある南万代小学校にも、何人かの方が避難してきた。

学区は、信濃川に隣接した河口付近に位置している。地震、津波、河川の氾濫等について、意識を高くもっておく必要を感じた。

南万代小学校では、2018年から防災教育を地域教育プログラムの柱に位置付けて取り組んできている。当校の取組について紹介する。

### 2 取組の実際

#### (1) 指導計画

各学年、生活科や国語、社会、総合的な学習と関わらせ、合科的な指導計画にしている。

学年	活動名	活動内容
1学年	地域の方と関わろう	新潟甚句や昔遊びを教えてもらう活動を通して、地域の方に関わる
2学年	探検・私の町	町探検を通して、校区の店や施設、地域の特徴を知る
3学年	私たちのまち	地域見学や発表会を通して、校区の名所や危険個所について知る
4学年	安全・健康なまちづくり	消防や警察署等の見学や体験活動を通して、安全・健康のための仕事や工夫を知る
5学年	つくろう安全なまち南万代	新潟地震当時の被災の様子や校内の防災設備を調べることを通して、非常時に自分たちができることを考える
6学年	住みたくなるまち中央区	地域の特色や地域防災を調べたり活動に参加したりすることを通して、「住みよい中央区」について考える

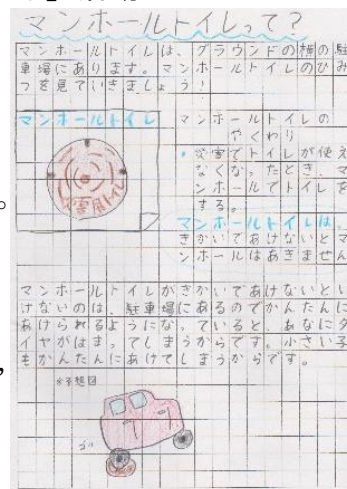
各学年指導計画

地域を知る、地域と関わる活動を通して、防災意識を高め、この地域で暮らす一人の人として、どう考え、どう行動したらよいか考えるよう指導に当たる。3年生から、防災について取り扱う。

#### (2) R2の実践

##### ① 4年生：「知る」活動

まずは、校内の施設設備を調べ「知る」活動を行った。非常時の防災施設にはどのような物があるか、どう使用するかについて、社会科



の学習と関 子どものリーフレット(一部)連付けて調べた。調べたことを「知識として残す」ことを目的に、リーフレットとしてまとめた。

##### ② 5年生：「感じ発信する」活動

校内にある防災グッズについて調べた。災害時に避難する方法や、避難所を開設した時の設備などについて、保管場所や使用方法について調べた。「物がある」という意識ではなく、「非常時には、自分もそれを使う」

という意識を高めることができた。学習の振り返りにも、「自分も防災活動に参加する一員」とであると自覚が感じられるものがあった。

### ③ 6年生：「創る・参加する」活動

今年、新潟駅を挟んで信濃川側と鳥屋野側の地域を結ぶ「新潟鳥屋野線」が開通した。これにより、両地域の往来が格段に楽になった。これは、災害時の交通の混乱を防ぐことにもある。このことについて、新潟市都市政策部新潟駅周辺整備事務局の協力を得ながら、遠隔システムを活用した学習を行った。また、新潟市長にインタビューする機会を得た。街づくりを「防災」という観点から学習したことをリーフレットやパンフレットしてまとめ発信した。



新潟鳥屋野線開通 市長に質問

### (3) 地域合同避難訓練

南万代地区コミュニティー協議会の研修で、コロナ禍における避難所運営の方法について考えた。今年度は、コロナ禍における災害対応という新しい視点から、これまでの計画や準備を振り返ることとなった。「広さ」「プライバシー」の他に「感染予防」という視点が加わった。備品の確認ばかりではなく、避難者の受け入れ方法やスタッフの役割分担の見直しを行った。

## 3 成果と課題

### 及び本実践で

コロナ禍にあり、これまでの「防災」という視点から見直し、遠隔システムを活用した関係性の築き方を実践的に学ぶことができた。他の地域との学習場面にも応用していきたい。

一方で、コロナ禍の指導のため、地域の方と合同に学び合える機会を設定できていない。地域の方との関りが不十分であったため、学びの過程の中で、「自分自身が安心安全な街づくりに参画している」という意識を高めることが弱かった。

## 4 おわりに

11月のはじめ、昭和39年に南万代小学校を卒業された方（現在、神奈川県在住）から手紙が届いた。手紙には、38豪雪のこと、新潟地震のことについて触れた記述と当時の校舎や新潟地震の際の校区の様子の写真が同封されていた。



地震や津波、雪害そして疫病と、自然の脅威は計り知れない。安心安全な環境の中で、子どもが豊かに学び育つために、そして子ども自身が、自ら安心安全な街づくりの担い手となるための教育を、地域と連携しながら推進していきたい。